

以上の例証は、井上靖の言う「ふるさと」に対する位相である。前回において、ICTが関係した「ふるさと就労」と「田舎に暮らす」という局面について概述した。地方で働くことは「ふるさと」を発見することで「ふるさと」を身近にする。そして身近になる。現場の姿を、次のサ

イトで見ることが出来る【註6】。その『くらし』には、北海道に移住して暮らしている笑顔や姿を見ることが出来る。「農スタイル」、「森スタイル」、「海スタイル」など、土地や水と密着した第1次産業を基軸とした若い人たちの取り組みを知ることは、喜ばしい。

夢は今もめぐりて、忘れがたき故郷。如何にいます父母、恙なしや友がき、雨に風につけても、思い出す故郷。こころをばたしていつの日にか帰らん、山はあおき故郷。

水は清き故郷。【註1】本コラム第④回「ふるさと」と「ふるさと」オランダス（下）「第174号」（2020年12月14日刊）
http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_47.pdf

【註2】本コラム第①回「くらし」の緒としての一考「第123号」（2019年1月28日刊）
http://www.kofuza.jp/images/nen_2019_1.pdf

【註3】本コラム第③回「コロナ危機に思うくらし」第155号（2020年4月5日刊）
http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_31.pdf

【註4】本コラム第③回「コロナウイルス危機への検討」第156号（2020年4月20日刊）
http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_32.pdf

【註5】本コラム第③回「くらし」の仕事。『くらし』
<http://www.kofuza.jp/stayinghome>
 e「第157号／第158号」（2020年5月4日／5月11日刊）